

焦点

ダムが地域の観光振興に一役買っているケースは少なくない。険しい峡谷にアーチを描く関西電力の黒部ダムは知名度が高く、その代表格だろう。今秋、二度訪ねたが、国内だけでなく台湾などアジアからの観光客も目についた▼黒部ダムのふもと、大町市（長野県）には年間およそ300万人の観光客が訪れる。このうち、3分の1にあたる約100万人がダムに足を運ぶ。富山県側の立山と結ぶ立山黒部アルペンルートの効果が手伝い、押しも押されぬ市の観光産業の中心である▼黒部ダムを訪れる人の目を引きつけるのは、何といっても観光放水だ。

二つの放水口から毎秒10トもの水がしぶきをあげて流れ落ちる荘厳な姿は、自然の滝に劣るまい。残念ながら、今シーズンは今月15日で見納めになってしまったが▼この観光放水、見る角度によってハート形になるといふ。そう言われてみれば、二つのまろやかな曲線の重なりはハートに見えなくもない。ハートが飛び出る黒部ダムと同じハート形の青木湖、北アルプスの絶景を望む、鷹狩山展望公園などのスポットを結びつけた大町市は、今年4月に「恋人の聖地」に選定された

▼NPO法人・地域活性化支援センターがプロポーズにふさわしい場所として現在、12カ所を選んでいる。「若い人たちに足を踏み入れてもらい、交流人口を増やしたい」と市の担当者は言う。モニュメントの設置や、市内の有志と協力してカップルで楽しめる洋菓子づくりなどを進める▼地域の新たな魅力づくりには黒部ダムも、もう一役買うことになる。ハートの観光放水を見ながらプロポーズ。来年の観光シーズンには、そんなカップルが見られるかもしれない。